函館市立幼稚園のあり方検討協議会（第３回）会議録

日　時	平成２８年４月２０日（水）　１８：４５～１９：２０
場　所	函館市役所５階　教育委員室
出　席	委　員 （会長）　鳴　海　　裕（函館市小学校長会副会長） （副会長）齊　藤　　縁（北海道教育大学附属函館幼稚園副園長） 乳　井　英　雄（函館大谷短期大学教授） 木　村　一　雄（函館市私立幼稚園協会会長） 事務局　木　村　雅　彦（学校教育部長） 佐　藤　ひろみ（生涯学習部次長） 柴　田　　成（学校教育部学校再編・計画担当課長） 村　上　貴　洋（学校教育部学校教育課主査） 松　本　　大（学校教育部学校教育課主事）
欠　席	委　員　髙　松　優　子（函館市ＰＴＡ連合会副会長）
傍　聴	２名

１　開　会

会議の公開と報道関係者の取材を承認。

出席者４名。過半数を超えているため，会議成立。

２　学校教育部長あいさつ（木村部長）

３　審議

（鳴海会長）

こんばんは。前回，前々回と２回，委員の皆様から熱心な，専門な立場からご意見をいただいた。今日示された案について，修正もあるように思っているが，その案について最後の検討をされてご意見をいただき，あとは教育委員会の方におまかせしようと考えている。教育委員会が用意した資料があるので，説明願いたい。

≪事務局より，資料説明≫

（鳴海会長）

資料１のこれまでの本協議会での内容について。それから，当初示された案の修正と，修正前・修正後ということで新旧対照表が示された。

資料について，ご質問等があればお願いしたい。

（木村委員）

（資料３の）１２番，前は私立幼稚園２２園との記載があるが，４１園と記載したのは，保育園協会に入っている認定こども園も数字に入れたということの意味合いとなるのか。４１園になったということは。

（事務局）

昨年度に「函館市幼稚園・こども園協会」となった。もともと幼稚園ベース・保育所ベースの，認定こども園は両方の機能を持つ。単純に認定こども園を含めた数字が４１園ということになる。

（木村委員）

協会の規約が今はどうなっているのかはわからないが，函館市幼稚園・こども園協会というのは，学校法人立など学校が加入する団体というふうに認識をしたが，その中に社会福祉法人立の認定こども園が加入できるようになっていれば４１園でいいと思う。ただ，最初から加入の資格が無い園の数字を載せたということになると誤解を招く。たった１６園しかないと言うと，はこだて幼稚園の地位を下げる。あくまで，学校法人立の団体は，国立を入れて市内では２５園だと思うが，そうすると２５園中１６園というのが望ましいと思った次第だ。こども園協会に名称を変えたときに，社会福祉法人立の認定こども園でも入れることができるという規約になったのかどうか，その辺がちょっとわからない。もし，入ることができる会だということであれば，４１園でもいい。そうなると，入会の勧誘をはこだて幼稚園として，会長園として，行ったのかどうかというのが問われる。もし，規約でそうなっているのであれば，４１園中１６園でもかまわないと思うが，その辺だけちょっと誤解がないようにした方がいいと思う。

（事務局）

再度確認し，規約に沿った対象の数字ということにさせていただきたいと思う。

（齊藤委員）
　ちなみに，平成２７年の春に函館市幼稚園・こども園協会になるという風にして変わり，平成２７年の秋，これからは，幼稚園も保育園も，函館市の子どもを全部対象とするという観点から，認定こども園を含めてという形になっている。ただ，そこに一致して加入しているかっていうところになると，名前が変わってということで，現在の状況，加入の方はちょっとよくわかりませんけれども，そういう形で２７年度に確認をされている。

（木村委員）
　そうすると４１園でいいのかもしれない。でも，そうであればどうして，２８年度に再度加入する促進とかしなかったのかがよくわからない。

（齊藤委員）
　そうですね。

（鳴海会長）
　経緯も含めて，事務局で調べてほしい。他に何か意見はあるか。

（木村委員）
　（資料３の）１８番に記載がある幼稚園と小学校との連携となっているが，国で議論されているのは，「連携」ではなくて「接続」というというのが主流になってきている。幼稚園から小学校への「接続」という部分がこれから重要視される。もう今から「接続」という言葉が入ってきてもいい。幼稚園と小学校の「接続」をこれから重視していかなければならないという教育委員会の立場からすると，「連携」させるというより「接続」をどのように行うかという立場の方が，南北海道教育センターの方でもやりやすくなるのではないかと思う。事務局の方でも考えてみてはいかがか。

（鳴海会長）
　幼小に関わって文科省の方で報告が出されている。前回話した小１プロブレム対応のスタートカリキュラムだとか。「滑らかな接続」という言葉が，何年か前に出されているので，「連携」という言葉から一歩進んで「接続」という言葉が，今はそういう言葉なのかなというように思っている。幼小，小中，中高の「連携」という言葉がずっと使われてきたが，今は，中高一貫だとか，小中もそのように繋がっているということで，時代はそういうことを求めている。貴重なご意見ありがとうございます。他に何か意見はあるか。では，今回の協議会は３回目，最後ということで，委員会か

ら修正された案が示された。具体的には，新旧対照表をもって詳しく変更点を示されているが，まず，この協議会の方向性，はこだて幼稚園と戸井幼稚園の２園について，我々は決定する機関ではないが，方向性として，意見をいただければと思う。

まず，はこだて幼稚園と戸井幼稚園の存廃に関わる，今回修正案として示された案であるが，２回の協議の方向性としては，代替となる場も多くある。それから，新制度への対応を見て，方向性としてはやむなしという部分なのかもしれないが，最後ということで，まず，この案について一人ずつご意見をいただければと思う。それから，案にもあるが，閉じるにしても，ただ閉じるっていうことではなくて，今後，函館市における幼児教育のあり方について，若干具体的に案の最後の方に示されているが，今後についても，こう加えていったほうがいいという意見があればいただきたい。両方とも案に関わることなので，そのことに触れても結構だと思う。齊藤委員から，今までのことを踏まえながら意見をいただきたい。

（齊藤委員）

１回目，２回目の会議の中で，函館市が考えていることは充分よくわかったし，現状も把握して，私ども国公立に属するものとして，いままで意見は全部お話させていただいた。それでこの決定については，いろいろ検討したので，修正案を含めまして十分理解したし，その中で，「市民の声」や他の方々からお聞きしても，充分そのことについては話をし，いろいろな方面から検討したというように自信を持って話すことができると思う。ただ，ひとつだけ，私が最後に，この方向性のことで申し上げるのは，資料１の２枚目の赤で書かれている部分，函館市幼稚園・こども園協会，それから北海道国公立幼稚園・こども園協会，幼小の連絡協議会，これらについては，今後，やはり何らかの形で函館市の方でやっていかなければいけないと考える時に，戸井幼稚園がまず存続をするということになっていると思うので，戸井幼稚園がひとまず担っていただくのがいいと思う。現状申し上げると，今，はこだて幼稚園と戸井幼稚園は人事交流もある，つまり，はこだて幼稚園で勤務していた幼稚園教諭が戸井幼稚園に行ったり，研究部長同士が私共と一緒にやっていったりという中で，研究や方針などについては，両方とも，どちらが主で副とかこともなく，一緒になってやっているというところから，当面この役割を戸井幼稚園さんに担っていただきたいと，国立の立場としては思っている。この後については，行政サイドの考えもあると思うが，一案としては，今回，はこだて幼稚園は廃園という形になるかもしれないが，名称について，同じ函館市立の戸井幼稚園が残るのであれば，「はこだて戸井幼稚園」という名称，統合となるかはよくわからないが，そういう形であるとか，教育委員会とは少し離れるかもしれないが，この後，認定こども園という形ともあっていいと思う。これは私の方が考える事ではなく，函館市，それから函館市教育委員会が考えられる

ことだと思うが，検討の余地を残しておくというふうに，ここで終わるのではなく，一旦は廃園するけれども，検討の余地を残しておくというようなことも必要なのかなと思う。

（木村委員）

前回，前々回から，２回お話させていただいた。私は，まとめた案についてはこれでよろしいと思っている。ただ，齊藤委員が話されたことは，大事なところでもあると思うが，やはり団体としての価値観などを，自分たちももっと考えなければ，団体の維持は難しいだろうと思う。

（乳井委員）

この幼稚園のことを考えるということなので，なるのはしょうがないのかなっていうことだと思う。どうしてこうなったのかなというのは今更考えてもしょうがないが，将来的な展望をどうするのかということ。幼児教育あるいは就学前教育について函館市はどういうことを考えて，どうしていくのかなっていうところがやっぱり一番大切なことになってくると思う。そういうところを違う部門で，どれだけきちんと検討できるのかということが最終的には大切になってくると思うので，今ここでその既存の幼稚園をどうするこうするについては，この案でしかたないのかな，というのは，現在ではそれしか言いようが無いと思う。ただ，研究活動等々でいろんな支障が出るのは間違いないし，それから後は，時代の流れをもっと読んでほしいと言うことだ。私立幼稚園も今はまだ多くあるが，それがどれだけ残るのかもわからないし，一歩間違うと非常に無くなるかもしれない。そういう流れを考えていけば，私学というのはどこまで行っても私学なので，経営が成り立たなくなれば，自然に無くなるのは普通の姿だ。時代の変化というものをもう少し捉えながら，市としてどういうふうに考えて何をすべきなのかというのを，就学前の教育について真剣に考えていかなければならないという気がする。

（鳴海会長）

各委員からこれまでの１回目，２回目と結構時間をかけ，協議を進めて，熱心な討議をしてきたつもりである。そうした中で，最後の回ということで，それぞれの委員から出されたように，案については，おおむねこの案で進めていただくということである。ただ，それぞれ反応いただいたが，将来に向けてということで，もちろん教育委員会だけではなく，国においても文部科学省，厚生労働省という，それから内閣府も含めてとこれまで別々なものが一体となって色んなものが進んできているので，子ども未来部と教育委員会が今後，どういうふうに接続していくか，連携しながら，函

館市の幼児教育，就学前の子どもたちに対する教育を進めていくかということを，閉園ということのマイナスイメージを払拭するような新しい姿というのをなるべく早く示していただければありがたいと思う。後は少子化という時代で，幼稚園だけでなくて，前回話したように，公立の小学校・中学校も今その中にあるわけで，そうした少子化に向けて総体としての対策というのでしょうか，市長部局とも連携を取りながら全体を考えていかなければいけない時代だと思う。あと一点，研究については，これまで，はこだて幼稚園が中心となってリーダーシップを発揮してきたというのは事実である。それを戸井幼稚園が変わって担うことができるのかっていうこと。市立としては残るので，それをどのように担っていくのか，それから，今後は，公立だけでは難しいので，私立を含めてどういう研究というか，組織として今までの考え方でなく，新しい組織として研究のあり方等を検討していく必要があると思う。名称も齊藤委員から出た，戸井幼稚園とはこだて幼稚園という名前が，一園になるのであれば，戸井も函館の中であるから，「はこだて戸井幼稚園」と。そういう統合したという，廃園でなくて統合したっていうイメージで捉えていくというのもひとつだ。それから，認定こども園。今の時代で認定こども園を函館市として，どのように今後考えていくのかっていうことも検討していただければと思う。最後の機会なので，何か意見や要望等があれば。

（齊藤委員）

今，鳴海先生がおっしゃったように，マイナスのイメージっていうのは，函館市・函館市教育委員会も，やはりここでイメージさせてはいけないと思う。子ども・子育て支援を一生懸命考え，前向きに進んでの結論であるというふうに。やっぱり最後は，そういう形でないと，市民は納得しないし，この時代の流れで，閉めて終わりというわけではなく，それはその次に向かっていくものに繋がっていくものだという提示の仕方を是非していただきたいと思う。

（乳井委員）

幼稚園を１園やめるっていう事実と，それから子どもの教育を考えることは別物，だから，市としては考え続けなければいけないし，どうならなきゃならないかというのを予測しなければいけない。函館市は，今，こういう状況なので，無くならざるを得ないという，それだけのことだから，そこのところを区別して，きちんと将来の姿を考えるということだと思う。ただ，資料２つ，資料２は完全に提言書だから，こういう言い方になるが，この裏側にある資料１の意見を，どういう扱いをしてくれるのかなっていう，そこのところだ。それが大事になってくるかと思うので，その辺を考えていただければと，いうことだと思う。

（鳴海会長）

何度も申し上げるが，この委員会。３回，それぞれ立場があり，お忙しい中，集まっていただいた。貴重な時間に，貴重なご意見をたくさん頂き，改めてこの協議会で出された意見を，充分，教育委員会でも吟味検討し，形として表に出るのはあり方の案だろうけれど，今，言ったようなことも含めて，今後について，「市民の声」に答えているけれども，この答え方としては現状についてこう，しょうがないというような文で答えているのが印象的に多いような気がする。乳井委員がおっしゃられた，今後，函館市として幼児教育，就学前教育を，子ども未来部と一緒にということになるのかどうか。その辺について充分に検討していくなど，そういう前向きなことを示すことによって，今，通わさせている保護者の方に対して，それから，これまで何十年もはこだて幼稚園が担ってきたことや，たくさんの卒園生もいるという，そういうことは，これは目をつぶっている訳にはいかないと思うので，そういう思いにも応えるということになるというように思うので，よろしくお願いしたいと思う。それでは最後に，ということでよろしいか。まずは，委員皆様，ありがとうございました。私は，こういう立場でここにいるので，一番こう，ふさわしくない人間がここにいるのかなって思いながら進めさせていただいて，皆様のご協力で閉会を得ることができた。この意見，本日の会議をもって終了となる。何回も申し上げたけれど，３回の協議会それぞれ，今日１名の委員の方がいらっしゃいませんが，それぞれの立場から多角的・多面的にご意見をたくさんいただき，私も大変勉強になった。今後については，この協議会の委員の思いを十分に汲んで，函館市の幼児教育の充実に，教育委員会がリーダーシップを発揮してほしいと思う。

それではわたくしの役目はここまでということで，事務局の方にお返ししたい。

４　閉会